

本日3月23日の本会議において議案第21号の議案訂正の承認の議決後、本会議休憩中に予算常任委員会を開催しました。3月8日から11日の4日間に開催した委員会の質疑経過と併せて議案第21号及び議案第34号についての審査結果を報告します。

主な質疑は次のとおりです。

議案第21号令和3年度湖南省市一般会計予算について、カーブミラー修繕費用が減額されていることについての質疑に対して、これまでは毎年20件前後しか修繕できなかつたが令和2年度は交通災害共済の分配金が交通対策に活用できたので、過去からの積み残し分も含めて50件ほど修繕し、ほぼ全て対応できたので令和3年度は少し減額している。また今後は曇り止め仕様のカーブミラーを各区に周知し、積極的に設置を進めていくとの答弁でした。

4万円の庁舎整備事業費の使い道についての質疑に対して、職員が調査、精査するための費用で、庁舎整備に関しての専門的な調査は、本来必要であろう予算を使わない方法でしっかりと進めているとの答弁でした。

地域おこし協力隊の財源と成果、継続性についての質疑に対して、財源は特別交付税が適用され、隊員一人当たりの活動費が年額200万円、加えて活動経費として200万円で、平成30年度からはローカルベンチャー事業としてスタートしており、主に石部地域で活動し、地元で雇用が生まれるなどを期待するものであるとの答弁でした。任期の終わった隊員は定住しているのかとの質疑に対して、以前は定住に結びつかなかつたが、起業に特化する形で事業展開をし、移住しなくても関係人口という考え方で湖南省市に愛着を持ってもらう。また国の財源措置に頼ることなく事業継続、収益性を確保できるよう期待するものであるとの答弁でした。

新たな行政事務学区統括委員の役割と何が簡略化されるのかとの質疑に対して、約3年かけて地域運営組織の見直しをしてきた結果、行政事務取扱委員である区長さん方を統括してもらう役割で、まちづくり協議会の会長を公的な位置づけのもと、報酬を得ることにより担ってもらう。組織の運営形態は令和3年度にそれぞれの地域で検討してもらうとの答弁でした。新規で地域代表者会補助金があるが、一元化する会議体の中身はどう変わるのかも含めて区長の方々は認識しているのかとの質疑に対して、既に合同の会議体をもっている地域も2学区ほどあり、区長会の度に説明しているとの答弁でした。

指定金融機関の滋賀銀行甲西中央支店派出所を廃止し、会計年度任用職員が収納業務を行うことについての質疑に対して、派出所の廃止は県内一斉である。収納業務の件数は1日100件以上はあり、金額も月末では100万円を越えるものもあるので担当者を置くことになったとの答弁でした。

基金の利息の落ち込みについての質疑に対して、各金融機関でバラつきはあるが、およそ5分の1になっているとの答弁でした。

生活保護費が5,700万円減額されている理由についての質疑に対して、コロナ禍を理由に申請が増えていることはなく、決算額の見込みから試算して計上しているが、流動的なので足りない場合は年度途中の補正予算で対応するとの答弁でした。

安心応援ハウス事業の現状についての質疑に対して、申請のあった26団体中、20団体が開催した。来年度はウィズコロナを見据えて運営方法を検討していきたいとの答弁でした。

病児保育の委託料の算定についてと、コロナ禍の感染防止対策をするにあたって考慮しているのかとの質疑に対して、令和2年度の利用者はかなり減少しているが国の通知により令和元年度並みの利用者数での補助を予定している。補助の単価と利用者数に合わせた額の算定割合が令和3年度は変わっているので、それに合わせた形で予算要求をしている。コロナ対策としての国からの補助金を活用して、委託料に必要な経費を加算しているとの答弁でした。

三雲児童館の今後のあり方についての質疑に対して、残してほしいという地元の要望もあるので、まずは安全性を確認するため耐震診断を行う。そして診断の結果を元に今後の方向性を検討していくとの答弁でした。現在の職員の配置についての質疑に対して、保育士の資格を持った館長と児童厚生員の職員の2人体制であるとの答弁でした。

コロナ禍のさくら教室の運営状況や子ども達の様子についての質疑に対して、非常事態宣言下の小中学校の休校中も開設を続けていたので保護者も安心し、学校再開後もスムーズに登校できたのではないかと考えられる。教材としての備品は今年度の予算でも少ないが予算内で対応してもらっているとの答弁でした。水戸小学校での開設は学習環境の公平性の観点からしてどうかとの質疑に対して、開設場所を増やすには予算的な問題もあるので難しいが令和3年度は石部小学校に通訳を1人配置して配慮しているとの答弁でした。

雨山市民プールの除却時期と除却後の活用についての質疑に対して、除却のスケジュールは未だ決まっていない。除却後は更地にし、その後の活用は未定であるが有効活用できる様に検討していきたいとの答弁でした。

給食センターの修繕が頻繁に続いているが、メンテナンスの予算はみているのかとの質疑に対して、ボイラーと厨房機器は平成27年度4月からで、それ以外の機械設備は平成30年度からの契約をしているとの答弁でした。また根本的な原因について精査すべきではないのかとの質疑に対して、他市町の施設も調査しながら責任の所在も含めて明確にするとの答弁でした。

湖南省魅力発信拠点施設HATの経営改善とアクセスの改善についての質疑

に対して、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が減っているが、多目的エリアの活用も検討している。また地場野菜を積極的に使い、数字には出ない農業振興の役割を担ってもらえると確信している。SNSで湖南省の魅力を発信する準備もしてもらっているとの答弁でした。アクセスの改善は多額の予算がかかるので予算要求は見送り、検討は新型コロナウイルス感染症が終息してからと考えているが、構想だけでも職員で検討していきたいとの答弁でした。

市内の空き家の現状についての質疑に対して、空き家の件数は令和2年度2月末時点で393件、空き家バンクの所有者の登録が6件、利用者の登録が15件、成約数が7件で、特定空き家の立ち入り調査は7件、うち6件が特定空き家、そして補助金を活用しての除却が3件である。令和3年度は、利活用可能な空き家のうち20件の登録を見込んでいるとの答弁でした。事業費と委託先についての質疑に対して、空き家バンクを滋賀県宅建協会に100万円で、空家対策推進事業を湖南省シルバー人材センターに110万円で窓口と斡旋業務、また発生予防のための見回りや啓発業務も担っていただく。また相談窓口を住宅室に持つことで会計年度任用職員1名分の人件費約240万円の予算を見ており、トータルして若干増額となっているとの答弁でした。

ウツクシマツ保全事業の令和3年度の最終目標についての質疑に対して、保全計画を完成させて国に承認を得て、まずは自生地内への補植を実現したい。地元の方や専門家を入れた協議会を立ち上げて、市が中心に進めていくとの答弁でした。

新型コロナウイルスワクチン接種事業で一般財源の内訳についての質疑に対して、国庫補助金が令和3年9月末までのものとなっており、会計年度任用職員等の人件費は令和4年3月末までを一般財源からの持ち出しで見積もっている。国から示されている新型コロナウイルスワクチンの接種期間が令和4年2月28日までなので、改めて補助金も示されると思っているとの答弁でした。

予算全体の中で類似事業や市単独の補助金事業の精査、また人件費の抑制について検討し、令和3年度の当初予算の中にどう反映しているのかとの質疑に対して、類似事業と補助金事業の精査は見直しや調整を図っているが実際には手を付けられていない。人件費については業務量の見直しと合わせて抑えるようにしていきたい。集中的に切り込みたいと思った点に関しては不十分だったが令和3年度から令和4年度にかけて検討していきたいとの答弁でした。

自主財源が前年度より5.9%減っているが、その内訳として振興基金からの繰入金を大幅に減額にした理由はとの質疑に対して、コミュニティバスに充てていた分を国からの指導により減らしたことと、投資的事業においても今やるべき事業に絞った結果、減額したとの答弁でした。

議案第34号令和3年度湖南省一般会計補正予算（第1号）について、高齢者施設や養護施設等におられる方の接種についての質疑に対して、それぞれの施設の希望に沿って巡回することも検討している。なるべく精神的にも安心できる状態で接種してもらえるようにしたいとの答弁でした。接種会場についての質疑に対して、集団接種会場はサンヒルズ甲西、個別接種は生田病院、ほしやま内科医院、石部診療所、こうせい駅前診療所、夏見診療所、甲西中央クリニック、またワクチンの供給状況によって振り分けるので6カ所同時に接種できるわけではなく、予約の時点で接種可能な会場をコールセンターや予約システムで案内するとの答弁でした。

議案第21号では、反対討論として、新型コロナウイルス感染症拡大防止としてPCR検査の徹底が求められるが、そうした予算措置がされていない。また正規職員の増員をするべきである。特にコロナ禍での仕事量は増えており、責任を持って行政事務を執行するためにも正規職員の増員が必要である。そして市長の公約でもある中学卒業までの医療費助成については財政調整基金を取り崩してでも予算計上すべきである。逆に同和問題に関する予算は必要ないと考える。子育て支援事業については昨年、大幅な民営化をされたが民間園への指導、また公立で運営する重要性を認識すべきである。給食センターの度重なる修繕についても根本的な原因が解明されないまま修繕に関する予算が計上されている。以上のことから反対とするとのことでした。

賛成討論として、本予算は生田市長のもとで初めて編成・提案された予算だが、生活に混乱が生じることのない行政の継続性が担保された予算となっており、新型コロナウイルス感染症への対応はもちろん、アフターコロナの時代を見据えた前向きな予算である。またSDGs関連事業に予算が組まれ、未来志向のまちづくりが期待される。そして生田市長の強みである、国との連携を最大限に活かしていただき、石部駅周辺整備事業を本格化させ、「活気あるまち」の実現を大いに期待したい。市民が期待している「中学生以下の医療費無料化」を始めとした各公約については委員会として注視すべきであるが、本予算は「ずっとここに暮らしたい！みんなで創ろう きらめき湖南」へと繋がる予算であることは間違いなく、これらを理由として賛成とするとのことでした。

採決の結果、議案第21号については賛成多数をもって原案どおり可決すべきものと決定し、議案第34号については全員賛成をもって原案どおり可決すべきものと決定しました。